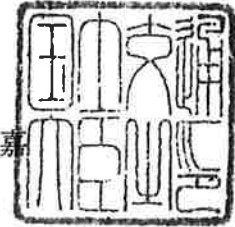


# 認 定 書

国住指第 3187 号  
令和 2 年 2 月 21 日

吉野石膏株式会社  
代表取締役 須藤 永作 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 46 条第 4 項表一の（八）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号

FRM-0679

2. 認定をした構造方法等の名称

厚 9.5mm 軽量両面ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板／めっき鉄丸くぎ NZ50／外周部@75mm、中通り@150mm／大壁造の床勝ち仕様／木造軸組耐力壁における構造方法

3. 認定をした構造方法等の内容

2.2 の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

## 1. 構造方法の名称

厚 9.5mm 軽量両面ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板／めっき鉄丸くぎ NZ50／外周部  
@75mm、中通り@150mm／大壁造の床勝ち仕様／木造軸組耐力壁

## 2. 構造の概要

## (1) 面材の概要

## a) 面材の名称

軽量両面ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板

## b) 面材の構成及び組成

面材の断面図を図1に示す。また、その構成材及び組成を表1に示す。

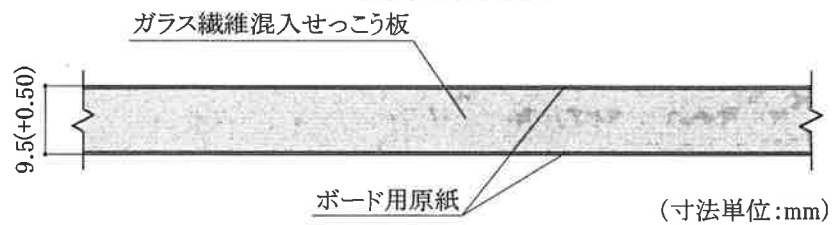


図1 面材の断面図

表1 構成材及び組成

表裏面材： ボード用 原紙	組成などは社外秘とさせていただきます。
芯材： ガラス繊維 混入せっこう 板	組成などは社外秘とさせていただきます。

## c) 寸法

	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)
寸法	9.5	900~1000	1820~3030
許容差	0~+0.5	±2.5	0~+5

## d) 側面加工形状

図2に示すベベルエッジ又はスクエアエッジとする。

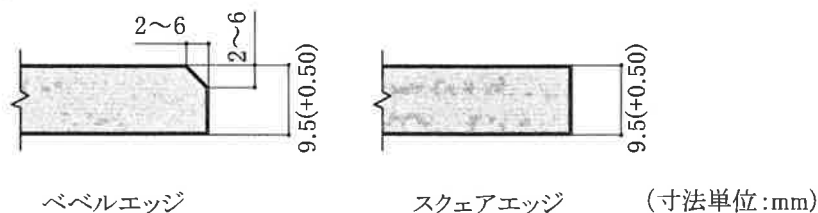


図2 側面加工形状断面図

## e) 品質の基準

面材は、国土交通大臣の認定を取得した面材（認定番号：QM-0954-1）に対し、面材の厚さの範囲を制約している。

性能：（試験方法はJIS A 6901：2014による。）

含水率 (%)	曲げ破壊荷重 (N)		単位面積当たりの質量 (kg/m <sup>2</sup> )
	長さ方向	幅方向	
3以下	500以上	200以上	6.84~8.36

外觀：軽量両面ボード用原紙張ガラス繊維混入せこう板の両面及び側面には、使用上有害な欠け、割れ、汚れ、きずなどがあってはならない。

## (2) 軸組材の仕様概要

部 位		寸 法 等
柱、土台、胴差、桁、梁	断面寸法	見付け 105mm×見込み 105mm 以上
継手間柱	断面寸法	見付け 45mm×見込み 105mm 以上
間柱	断面寸法	見付け 27mm×見込み 105mm 以上
胴つなぎ	断面寸法	見付け 60mm×見込み 45mm 以上
受材	断面寸法	見付け 30~45mm×見込み 40mm 以上
柱の間隔		900mm~2000mm
面材の継手となる継手間柱と柱の間隔		900mm~1000mm
間柱と柱又は間柱と継手間柱の間隔		450mm~ 500mm
横架材間の内法寸法	1枚張り	2100mm 以上 3000mm 以下
	縦継ぎ張り	2240mm 以上 3000mm 以下

## (3) 接合具の仕様

規格名称：くぎ  
規格番号：JIS A 5508:2009  
種類：めっき鉄丸くぎ  
呼び：NZ50

## (4) その他の仕様

## a) 床下地材

名称：構造用合板  
規格：合板の日本農林規格（令和元年6月27日農林水産省告示第475号）  
接着の程度：特類  
等級：2級以上  
厚さ：12mm以上30mm以下

## b) 受材の接合具

規格名称：くぎ  
規格番号：JIS A 5508:2009  
種類：鉄丸くぎ  
呼び：N90

## 3. 耐力壁の適用範囲

- (1) 当該面材を使用した耐力壁の適用範囲は、建築基準法施行令第40条から第49条（ただし、第48条第2項は除く）に準拠した木造軸組とする。
- (2) 当該耐力壁は、外周壁の屋外側下地材、室内側下地材及び内部壁の下地材に用いるものとする。当該耐力壁を外周壁の屋外側下地材として用いる場合は、防水紙その他適切な防水措置を講じるものとする。
- (3) 建築基準法施行令第46条第4項の表1に定める軸組又は昭和56年建設省告示第1100号に定める軸組を併用する場合は、倍率の数値5を限度としてそれぞれの倍率の数値を加算できるものとする。

## 4. 耐力壁の施工仕様の概要

## (1) 軸組材

- ①柱、横架材（土台、胴差、桁、梁）の断面寸法は見付け105mm×見込み105mm以上とする。
- ②間柱の断面寸法は見付け27mm×見込み105mm以上とする。
- ③面材の横方向の継手となる継手間柱の断面寸法は見付け45mm×見込み105mm以上とする。
- ④面材の縦方向の継手となる胴つなぎの断面寸法は見付け60mm×見込み45mm以上とする。
- ⑤面材を留め付ける受材の断面寸法は見付け30～45mm×見込み40mm以上とする。
- ⑥柱の間隔は900mm以上2000mm以下とする。
- ⑦面材の継手となる継手間柱と柱の間隔は900mm以上1000mm以下とする。
- ⑧間柱と柱又は間柱と継手間柱の間隔は450mm以上500mm以下とする。
- ⑨面材が取り付く胴つなぎは、床下地材から1820mmの位置（胴つなぎ芯）に取付ける。
- ⑩横架材間の内法寸法について、縦継ぎ張りの場合は2240mm以上3000mm以下、1枚張りの場合は2100mm以上3000mm以下とする。

## (2) 面材の割付

面材は軸組に直張りとし、張り方は横架材間に胴つなぎを設けて2枚の板で縦継ぎ張りとするか、または1枚の板で縦張りとする。ただし、2枚の板で縦継ぎ張りとする場合、下側の面材の長さは1820mmとし、上側の面材の最小長さは420mmとする。

## (3) 面材の留め付け

①面材は、めっき鉄丸くぎNZ50を用いて、面材の外周部ではくぎ相互の間隔を75mm（マーキングからのずれの許容差： $\pm 8\text{mm}$ ）以下で柱、横架材、受材、継手間柱、胴つなぎに、面材の中通りの部分ではくぎ相互の間隔を150mm（マーキングからのずれの許容差： $\pm 15\text{mm}$ ）以下で間柱に留め付ける。ただし、面材端部に間隔の狭い箇所が集中するような極端な配置とならないようにする。

②くぎが有効に作用するように、面材の端部とくぎとの間隔（へりあき距離）は、受材、横架材及び胴つなぎでは15mm（許容差： $\pm 3\text{mm}$ ）、柱及び継手間柱では12mm（許容差： $\pm 2\text{mm}$ ）とする。

③面材の外周部及び中通りの部分におけるくぎ本数について、面材の長手方向及び短手方向の辺長（H、L）からへりあき距離（ $H_1+H_2$ 、 $L_1+L_2$ ）を減じた長さ（ $H-(H_1+H_2)$ 、 $L-(L_1+L_2)$ ）を算出し、その長さを各部のくぎ間隔（P、Q）で除する。

外周部のくぎ本数はその値の小数第一位を切り上げて1を加えた値とし、中通りの部分のくぎ本数はその値の小数第一位を切り上げて1を減じた値とする。

なお、図3に示す通り、面材四隅のくぎは長手・短手両方向のくぎ本数として数えることとするが、中通りの部分と外周部のくぎを結ぶ直線上のくぎは、中通りの部分のくぎ本数として数えないものとする。また、くぎ本数の一覧を表2に示す。

ここで、Lは900mm～1000mmのいずれかの値、Hは耐力壁の施工仕様に応じた下側もしくは上側の面材の長さの値、 $H_1$ 及び $H_2$ は15mm、 $L_1$ 及び $L_2$ は12mm、Pは75mm、Qは150mmとする。

④面材のかかり代は、柱は45mm以上、土台、梁、胴差および桁は30mm以上、継手間柱は20mm以上、受材は30mm以上、胴つなぎは30mm以上とする。

⑤くぎ留めは、面材に表示されたくぎ留めの位置に従って行い、表示のない位置は施工時にマーキング等した後にくぎ留めする。

⑥面材の継手部は縦方向および横方向とも突き付けとする。

⑦くぎは、面材表面に面一になるように留め付ける。

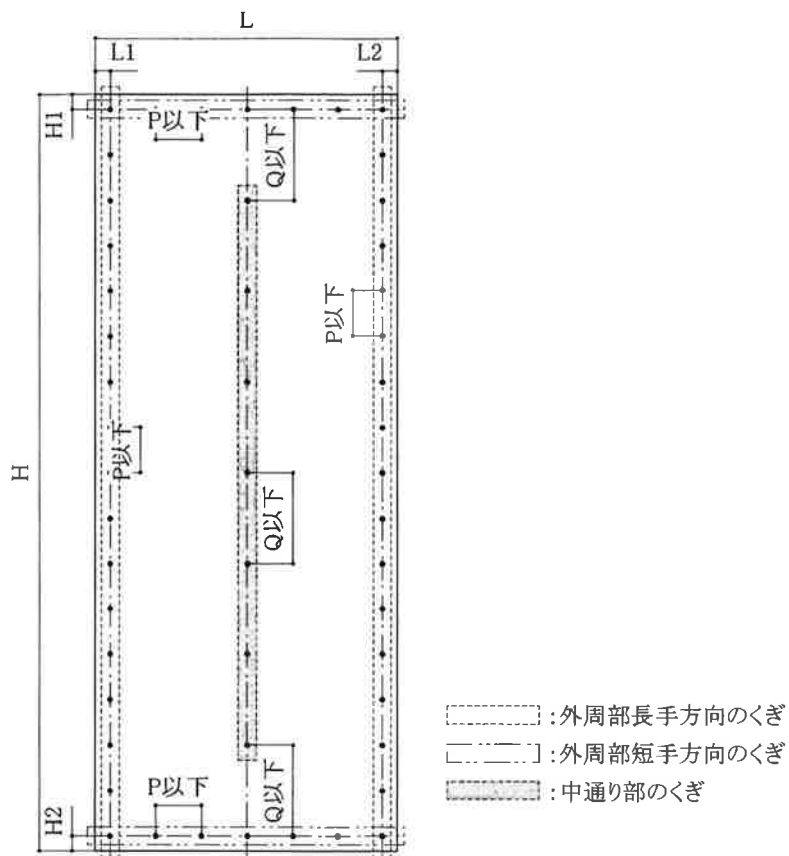


図3 各部のくぎ本数

表2 くぎ本数一覧

項目	仕様				
面材と軸組	種類	めっき鉄丸くぎ NZ50			
	間隔	外周部間隔	75mm	以下	
		中通り間隔	150mm	以下	
		面材長辺からの縁端距離	柱・継手間柱位置	12mm	
		面材短辺からの縁端距離	胴つなぎ位置	15mm	
			横架材位置	15mm	
	本数	面材外周部 短手方向長さ	900mm 以上	924mm 以下	13本
			924mm 以上	999mm 以下	14本
			999mm 以上	1000mm 以下	15本
		面材外周部 長手方向長さ			
		縦継ぎ張りの上側面材	420mm 以上	480mm 以下	7本
			480mm 以上	555mm 以下	8本
			555mm 以上	630mm 以下	9本
			630mm 以上	705mm 以下	10本
			705mm 以上	780mm 以下	11本
			780mm 以上	855mm 以下	12本
			855mm 以上	930mm 以下	13本
			930mm 以上	1005mm 以下	14本
			1005mm 以上	1080mm 以下	15本
			1080mm 以上	1155mm 以下	16本
			1155mm 以上	1200mm 以下	17本
		縦継ぎ張りの下側面材	1820mm		25本
		1枚張りの面材	2100mm 以上	2130mm 以下	29本
			2130mm 以上	2205mm 以下	30本
			2205mm 以上	2280mm 以下	31本
			2280mm 以上	2355mm 以下	32本
			2355mm 以上	2430mm 以下	33本
			2430mm 以上	2505mm 以下	34本
			2505mm 以上	2580mm 以下	35本
			2580mm 以上	2655mm 以下	36本
			2655mm 以上	2730mm 以下	37本
			2730mm 以上	2805mm 以下	38本
			2805mm 以上	2880mm 以下	39本
		2880mm 以上	2955mm 以下	40本	
		2955mm 以上	3030mm 以下	41本	
	面材中通り 長手方向長さ				
	縦継ぎ張りの上側面材	420mm 以上	480mm 以下	2本 または 3本	
		480mm 以上	630mm 以下	3本 または 4本	
		630mm 以上	780mm 以下	4本 または 5本	
		780mm 以上	930mm 以下	5本 または 6本	
		930mm 以上	1080mm 以下	6本 または 7本	
		1080mm 以上	1200mm 以下	7本 または 8本	
	縦継ぎ張りの下側面材	1820mm		11本 または 12本	
	1枚張りの面材	2100mm 以上	2130mm 以下	13本 または 14本	
		2130mm 以上	2280mm 以下	14本 または 15本	
		2280mm 以上	2430mm 以下	15本 または 16本	
		2430mm 以上	2580mm 以下	16本 または 17本	
		2580mm 以上	2730mm 以下	17本 または 18本	
		2730mm 以上	2880mm 以下	18本 または 19本	
		2880mm 以上	3030mm 以下	19本 または 20本	

(4) その他の施工仕様

床位置では、床下地材を厚さ 12mm 以上 15mm 以下の場合は、鉄丸くぎ N50 (JIS A 5508 : 2009) を用いて、厚さ 15mm 超え 20mm 以下の場合は鉄丸くぎ N65 (JIS A 5508 : 2009)、厚さ 20mm 超え 30mm 以下の場合は鉄丸くぎ N75 (JIS A 5508 : 2009) を用いてくぎ相互の間隔を 150mm 以下で土台又は横架材に留め付けた後、見付け 30~45mm×見込み 40mm 以上の受材を鉄丸くぎ N90 (JIS A 5508 : 2009) を用いてくぎ相互の間隔を 150mm 以下、へりあき距離 (面材からの距離) を 20mm (許容差±5mm) で床下地材に留め付ける。ただし、床下地材留め付けくぎから 10mm 以上ずらして受材くぎを留め付ける。

(5) 施工図

施工図を図 4~図 7 に示す。



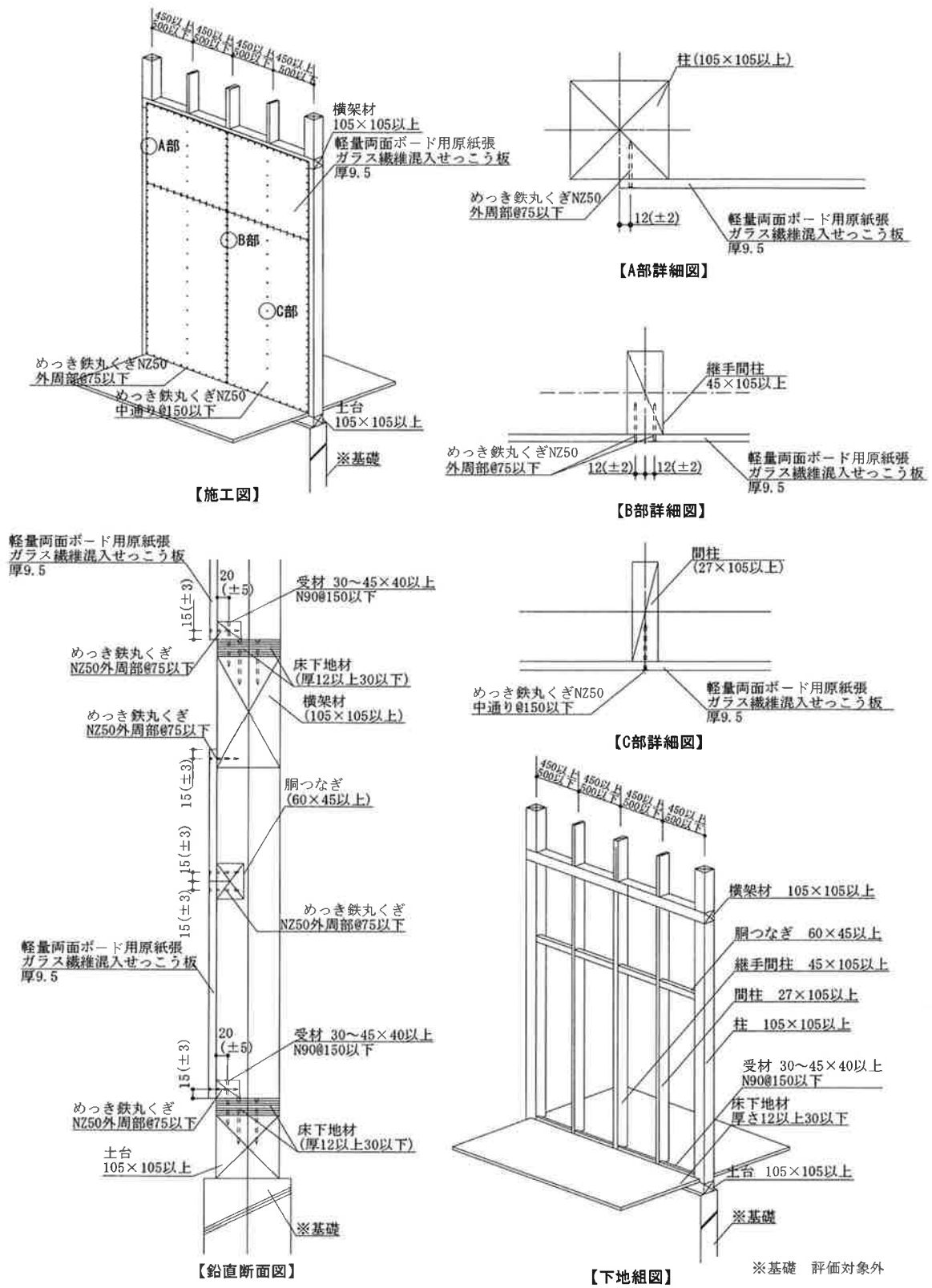


図4 施工詳細図：縦継ぎ張りの場合 (寸法単位：mm)

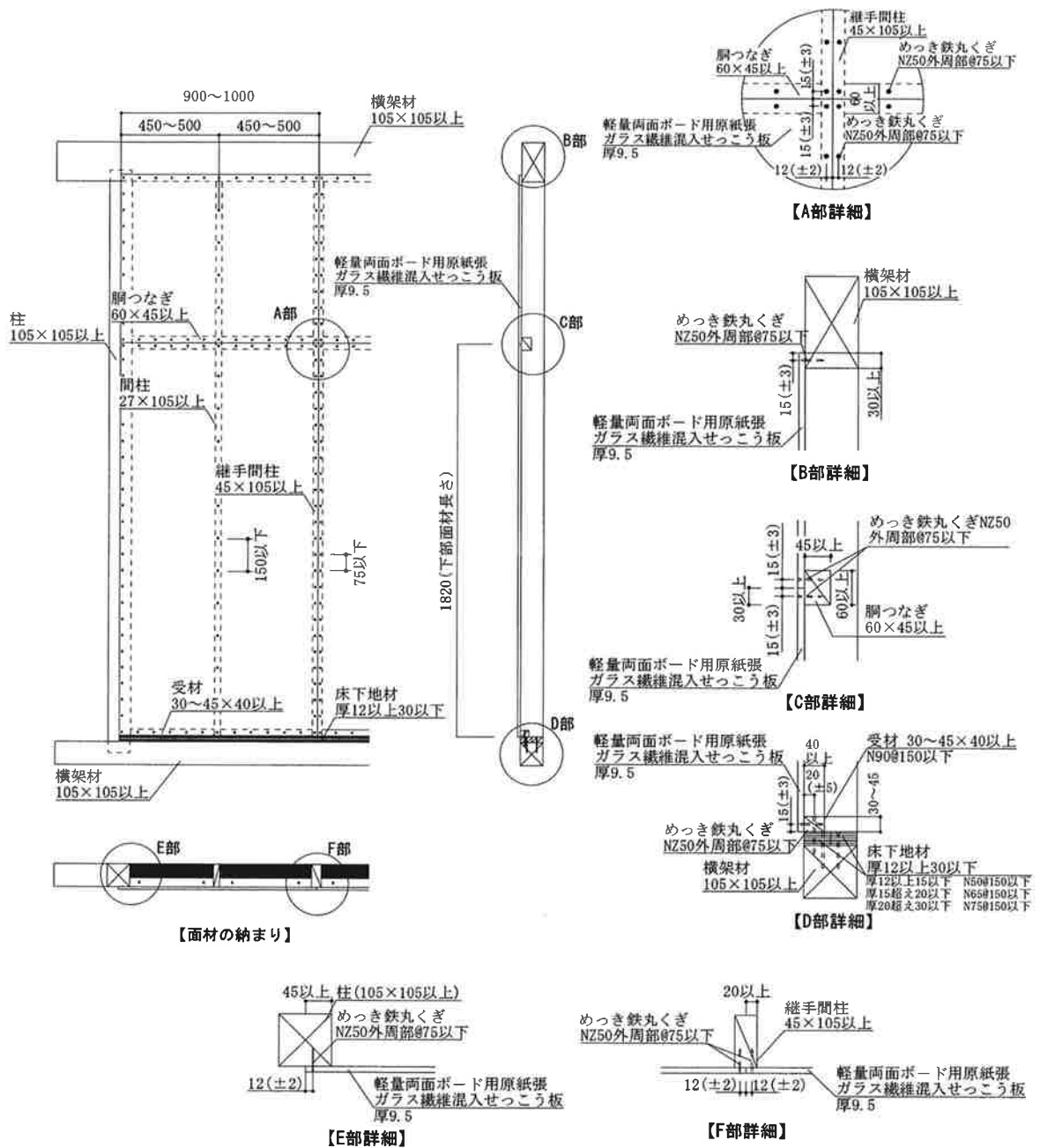


図5 施工図：縦継ぎ張りの場合 (寸法単位：mm)

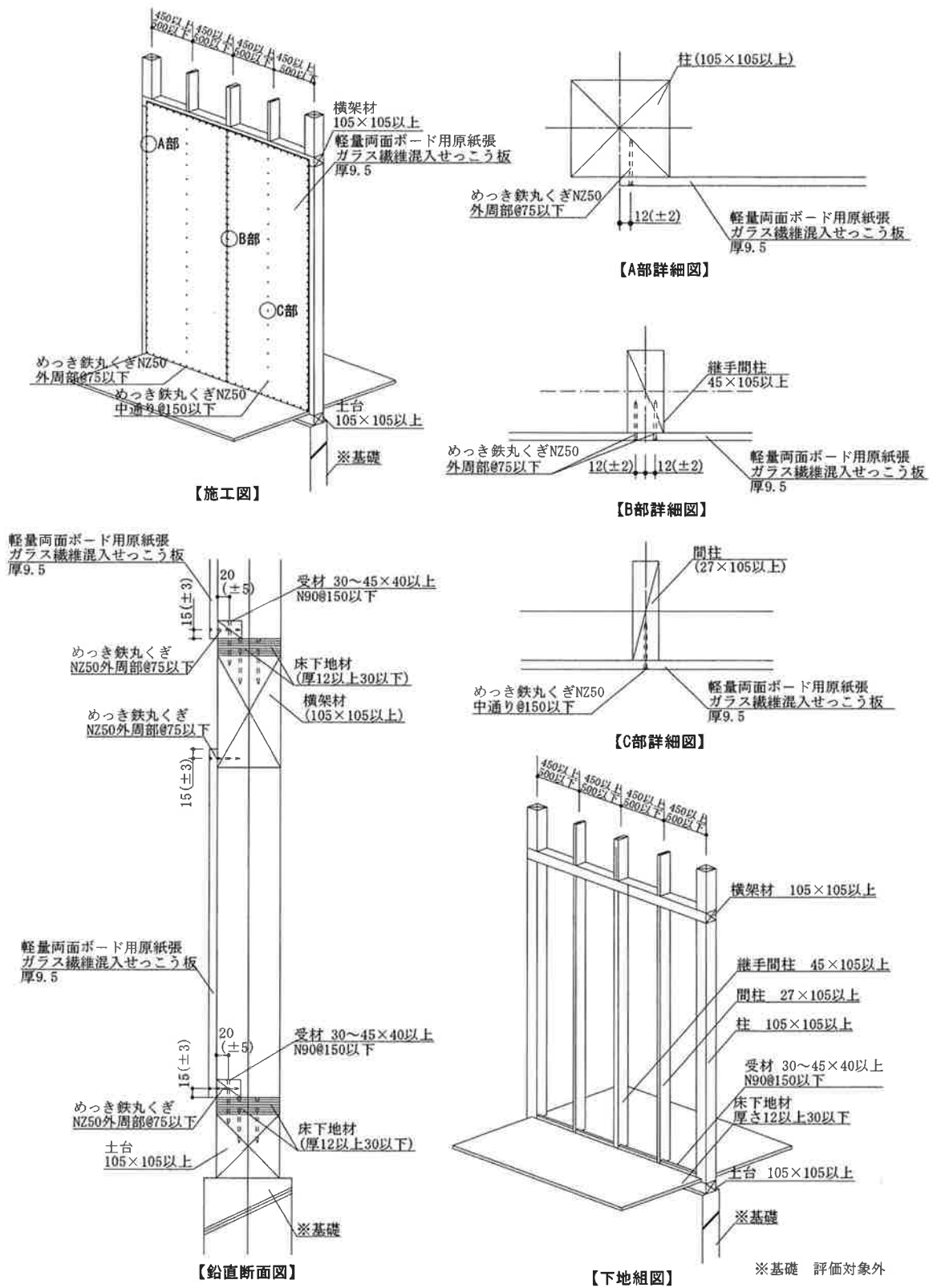


図6 施工詳細図：1枚張りの場合 (寸法単位：mm)

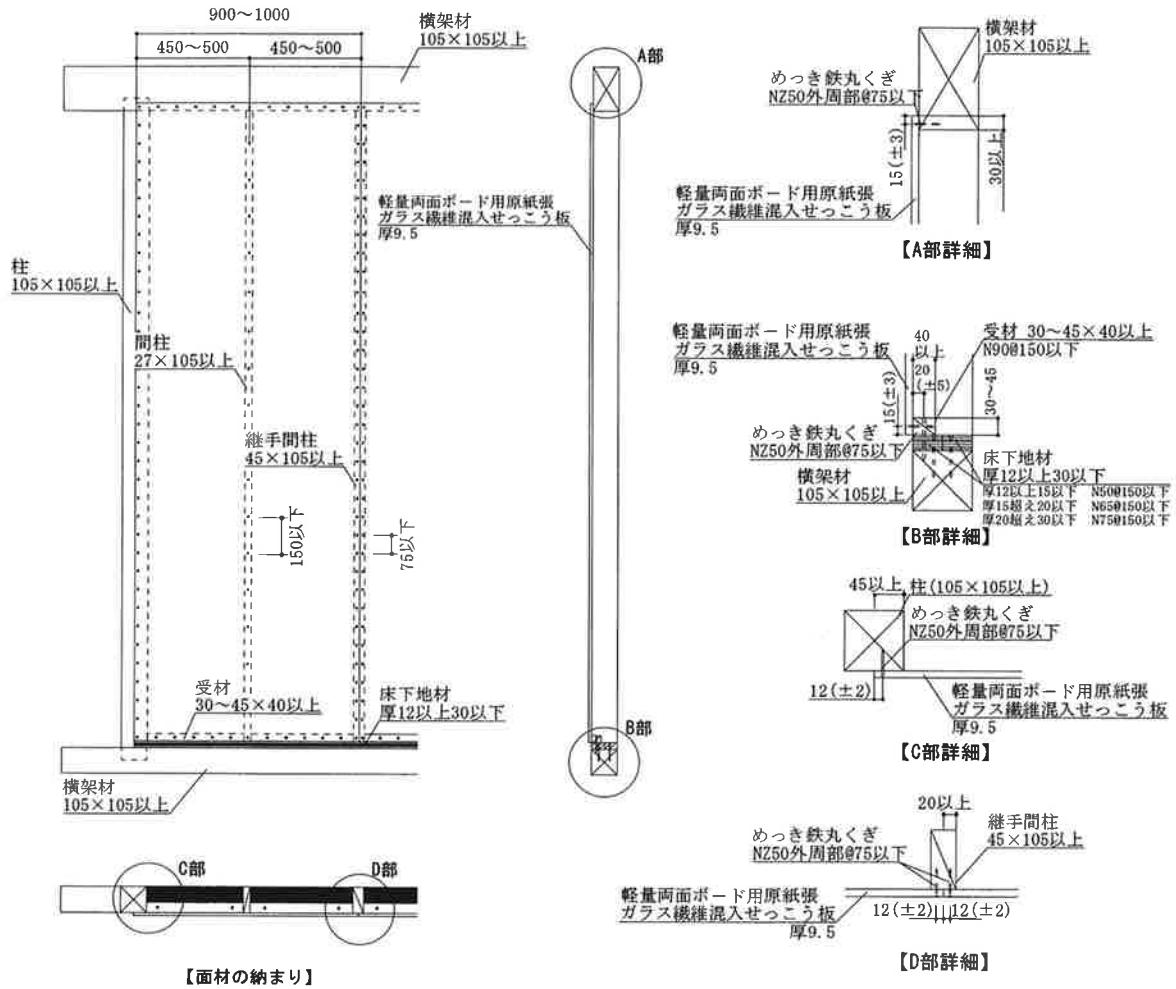


図7 施工図：1枚張りの場合 (寸法単位：mm)